

スイスの教育制度

ギンジツク恭子

先日、ドラッグストアに買い物に行ったら、菌にはブリッジを付けて、まだ幼顔の残る男の子が対応してくれた。まだ16歳、せいぜい上に見ても17歳ぐらいだろうか。胸には名札を付けていて、名前の下に「見習い生」と書いてあった。こちらの問い合わせに一生懸命答えてくれる。心の中で、頑張つてと声援を送った。最近はコロナもあって、スーパー以外の店に行くことはあまりなかったが、働く若い子の健気な姿を久しぶりに見て、息子があの年頃だった頃のことを懐かしく思い出された。そこで今回は、スイスの若者たちがどんな風に教育を受けているのか、親の経験も含めて振り返ってみたいと思う。

息子が中学2年生の時には、本人共々家族で進路についていろいろ話し合ったものだ。というのは、スイスでは子供たちが14、15歳の頃に、自分がどういう道に進みたいのかを考える仕組みに

シュヴィーツ州 ジール湖の眺め



なっているからだ。スイスも日本と同じく義務教育は9年だが、全体の教育制度の中身は日本とはかなり違っている。また、日本では、中学校を終えた後、現在は99パーセントの生徒が高校へ進学すると聞いた。だが、ここスイスでは、少し事情が違う。中学生の時に、自分がこれからギムナジウム（日本の高校に当たる）に進学して更に勉強したいのか、あるいは職業訓練を受けながら働く道を選びたいのか、一旦は決断する仕組みになっている。全体を見ると、自分がやりたい仕事の職業教育を受けて国家資格を取り、その分野で働く道に進む子供の方が多い。現在はおよそ3分の2ほどだという。もしギムナジウムに進学しても、卒業試験に合格してマトゥーラ (Matura) と呼ばれる大学入学資格が取れなければ、結果的には何の資格も

ないことになる。スイス人はたいがい皆、何がしかの職業 (Beruf) の資格を持っている。その人を知るために「あなたの職業は何ですか」という質問は当たり前だ。たとえ今は家庭人になっても、元を辿れば何らかの職業の資格、あるいは大学での資格を持っているわけだ。

スイスの学校制度は少し複雑で、まず、小学校6年間を終えたところで道が二つに分かれる。地元中学校に行く道と、州立の6年制のギムナジウムに行く道。この時点でギムナジウムに行く子は、地域にもよるが、だいたいクラスで1人か2人くらいになる。およそ25人の息子のクラスでも、ほとんどの子は地元の中学校に進んだ。その中学校だが、我々が住んでいるチューリッヒ州では、成績順にABCの3種類あって、息子が通った地元の中学もそうだった。地域によっては2種類だけの所もあるようだが、大半の生徒は中学A種かB種に行く。6年制のギムナジウムに進む子供は、たいがい特訓して受験勉強をしなくても受かる実力のある、勉強好きな子供のようだ。だが、親がアカデミックな仕事についている人が多い地域では、進学する子供の割合は高くなるらしい。親の後押しというのものもあるのだろう。当然、その先の大学進学が視野に入っている。最終的には、アカデミックな分野の仕事に就くことを目標としているわけだ。ただ、試験に受かって進学しても、3カ月後にまた残れるかどうかの試験があつて、それに合格しなければ、地元中学に戻って来るようになってくる。

次に、中学2年が終わる段階で、また選択肢がある。4年制のギムナジウムに行くか、中学3年まで行って、その後自分の希望の職種の職業訓練を受けるか。もちろん、一年様子を見て、3年生の時に進学を選ぶこともできるが、いずれにしても、進学に際しては、中学A種に行った場合のみ受験できる。ここでの進学率も、地域によって違うらしい。息子の中学では、この時点でギムナジウムに進学した生徒は、やはりクラスで2、3人だった。大半は3年の時に就職先を探して、卒業後そこで見習いとして仕事を教えてもらいながら、週1日は職業学校でそれぞれの仕事についての勉強をする道を選んだ。そして、その子たちは3、4年後に国家試験を受けてその職業の資格を取るようになる。息子が付き合っていた何人かの男の子たちも、それぞれ自動車工、家具職人、コンピューター技師、と自分の道を選んだ。自動車工の勉強をした子は、今ではその道でひとかどの成功をおさめているらしい。先日、偶然会った彼の父親が嬉しそうに話していた。

スイスの教育制度を誇るスイス人は多い。いろいろな可能性があると言う。はじめ、自分の子供が直面した時は、14、15歳で具体的な進路を決めるなんて難しいのではなからうかと思った。だが、選んだ職業の訓練を受けながらも、さらに週にもう1日、専門大学に行く資格である職業マトゥーラ (Berufsmatura) を取るための授業を受けて、可能性を広げておくこともできるのだと

いう。これは何も10代の職業訓練生の時だけではない。一つの職業の国家資格を取って働いた後、自分のやりたい別の道が見つかる場合もある。その職業に大学での勉強が必要であれば、働きながら更に職業マトウーラを取って進学することもできる。親戚にもそういう人が何人かいた。息子よりかなり歳が上になるが、ひとつの例がある。その人は、中学卒業の後に職業訓練を受けて機械工としてしばらく働いていたが、後にパイロットになろうと思った。そのためには、工科専門大学に行く必要がある。それで、働きながら資格試験を受けて大学に進んだ。今はパイロットとして活躍している。

ただ、いずれにしても中学2年生は、自分は何をやりたいのか、一度は将来に向けて真剣に向き合わざるを得ない。学校で、親と生徒を集めての進路説明会はあったが、先生が生徒個々の訓練先の会社を見つけてくれるわけではないので、親もなかなか大変である。息子の場合は、ギムナジウムで勉強したいという意思表示があったので、その苦労がなくて助かったが。もしあの当時、親子で就職先を探さなければならなかったら、事情の違う日本から来てネットワークもない私には、だいぶ荷が重かっただろう。子供が望まないのに、ギムナジウムに行かせようとする親もいるにはいると聞く。けれども、一番いいのは、その子の適性にあった道を探すことだと思う。ギムナジウムに進学したとしても、成績が悪ければ退学になるし、本当に本人に勉強する気がなければ、

ば、入った後が難しい。また、職業訓練の道を選んだ場合も、国家試験に受からなければ資格が取れず、その後に就ける仕事の幅が狭くなってしまふ。だから、皆一生懸命だ。学校に行った子も就職した子も、毎日朝早くから夕方遅くまで大変である。変動激しい世界、これから社会を支えていく若い人たちに幸あれかしと願う。